

鉄鋼ノボル 静岡新事務所完成、業績向上へ

熱処理センターなど強化

ノボル鋼鉄（東京都千代田区、三上晃史社長）

の重要拠点である静岡支店の新事務所が、このほど完成した。従業員の職場環境向上や、静岡の熱処理センターで行う熱処理事業の業績アップを目的に「本社と肩を並べるほどの位置づけ」（三上社長）で2017年からの5年間で大幅にリニューアルしている。

熱処理センターの熱処理炉は10基を更新。入れ替え、真空浸炭窒化炉や窒素ガス雰囲気炉を増設する。一連のリニューアルなどの総投資額約14億円のうち8億円程度を熱処理炉設備の更新や増設に充てる。

すでに新事務所で業務を始め、鉄骨造の新事務所は延べ面積が約500平方メートルの2階建てで、内部は清潔



新たな静岡支店の社屋

感のある雰囲気となっている。熱処理センターは1971年に開設されたが、建屋の老朽化や夏場の極度の高温状態があり、安全、従業員の働きやすさ向上を見込んで19年末から20年初め頃までに近接地に移転する見通しだ。三上

社長は「過酷な環境を改善し、少しでも社員の負担を軽減したいという思いが強い」と話す。ノボル鋼鉄にとっては15年の宮城テクニカルセンター開設以来の大型プロジェクトとなるが、今後も地方拠点の改善や老朽建物への対応といった施策を考えていくという。

現在の熱処理事業は年間約3億円弱の売上規模となっているが、事業の着実な伸長を目指している。周辺地域にはプラスチック金型材関係をはじめ製造業の有力需要家があり、熱処理の受注環境は「受けきれないくらいの量」（三上裕介取締役静岡支店長）となっている。新たな熱処理センターはレイアウトを直線的にし、整流化を図る。鋼材倉庫の移転完了は21年末を見込む。